

アメリカ・ウィスコンシン州にあるテント生地の搾乳牛舎について以前マネージメント情報で紹介しました(2012年9月号)。比較的安価な建設コスト・確認申請不要・固定資産税なし(今のところ)等、コストパフォーマンスに優れているのが特徴です。

何となく「農業用ビニールハウス」を想像している方が多いと思いますが、全く別物だと思ってください。昨年夏の猛暑日に見たときは「明るい木陰に入ったような」印象で、心配していたような暑熱に関する問題は感じませんでした(ごく一般的な暑熱対策があればよい)。冬の積雪期についても屋根に雪が積もることはありません。牛舎内部が非常に明るいというのが印象的です。

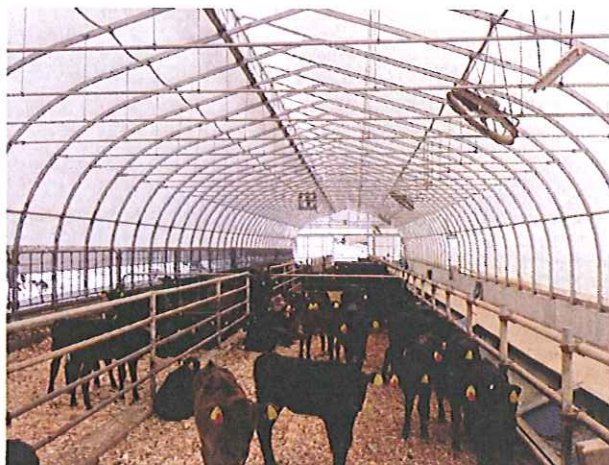
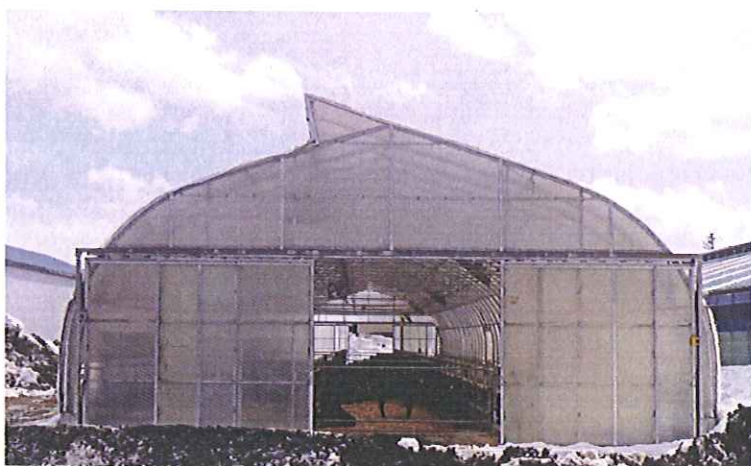
今回十勝の大平畜産さんで見えてきたものの一つに、哺育舎・育成舎・乾乳舎としての利用に向いていそうなやや小型のものがあつたので紹介します。

オーバルテック III

HARNOIS社 代理店(有)アグリグリーン

2重フィルムエアーレーション構造で高断熱・結露防止(側面カーテンよりも上部)

⇒外張りフィルムと内張りフィルムのあいだをコンプレッサーにより空気を循環させている



左)間口のバリエーションは4・5・6・7間。これは6間のもの。 右)長さ60mの畜舎内。太陽光を20%透過するので明るい。夏はシートが熱を蓄積しないので意外に涼しい(D型ハウスはトタン屋根が熱を蓄積するので輻射熱による舎内温度↑)。



この辺が2重フィルムになっていて、
あいだをエアが循環している

この畜舎は築8年のものです。これまで故障や補修はまったく無しだそうです。また風にあおられたり、雪でつぶれたりという例は他の物件でも今までないとのこと。ちなみにこの畜舎(6間×33間)の建築コストは200坪1600万円(当時)だったそうです。